

# くまざさ

## 100周年機会にステツプアップ

### 着任挨拶

北海道釧路湖陵高等学校

田 川 芳 紀 校 長

4月に着任した田川芳紀校長に、学校や釧路の印象などについてインタビューしました。

田川校長は、網走で生まれ、札幌で育ちました。小学校の陸上記録会で走り高跳びに出場し、好成績でした。「おもしろい」と感じた田川校長は、中学校から本格的に陸上に取り組みようになりました。高校に入り、衝撃的な光景を目の当たりにしました。メキシコオリンピックの走りの高跳びで、アメリカの選手が、背面跳びで次々とクリアしていきます。「これだ!」と思い、すぐに背面跳びの練習を重ねました。すると、成績がぐっと上がり、全国大会でも決勝に残るなど、活躍しました。「スポーツを追求したい」という気持ちで、京都教育大学体育科へ進学しました。教育実習を重ね、子どもたちと接している中で、教員の道へ進むことになりました。

最初の勤務は、留萌管内の天売高校です。ここで、前湖陵高校校長の片岡辰三さんと机を並べていました。「不思議な縁です」と田川校長は話します。天売高校は、定時制で、全校生徒は40人ほどです。漁業の町ですから、水産実習もあります。「生徒たちは、日中、家の仕事を手伝っているので、教員とその家族で、

ウニをむいたり、実習の準備をします。楽しかったですね」と思い出を語っていました。ここが田川校長にとって、教育の原点になったようです。

次は、札幌の北陵高校です。全生徒1350人を前に、ステージで紹介されたときには圧倒されたそうです。ここで



生徒を日々大切にする田川校長の大切なことを教えるために、田川校長は、先輩の先生たちから、さまざまな指導を受け、大きな力になったそうです。また、陸上部の顧問として、毎年のように全国大会へ生徒たちをつれていきました。

もらい、違った側面からオリンピックを見るのができました」と田川校長。その後、日高教育局を経て本庁へ。この時、大阪府で小学校に男が乱入し、児童が亡くなるというたいへん痛ましい事件がありました。さっそく学校の安全対策に取り組みました。田川校長は、「全国一律の安全対策ではなく、北海道にあった対策を考える必要がありました」と振り返ります。

5年間の本庁勤務のあと、それまでの経験を生かし、道内で唯一体育科を有する恵庭南高校の教頭として、「北海道の学校体育のレベルを上げたい」と現場で取り組みます。その後、帯広の緑陽高校教頭、十勝管内上士幌高校で校長となり、今年4月、湖陵高校へ赴任しました。

釧路の印象について「おもしろくて、楽しい。生活もしやすいですよ」とお気に入りのようです。また、生徒たちには、「湖陵で学ぶ者は、すぐれた能力を私利私欲のために使うのではなく、世のため、人のために活用する高い志を持つてほしい」と話しています。2年後には100周年を迎えます。田川校長は、「東京や札幌での湖陵会では、熱い思いを持った同窓生とふれあい、頑張らなければいけないという思いを強くしました。(100周年を機会に)さらに力強く、ステップアップしていくよう取り組んでいきたいですね」と意欲を語ってくれました。

取材・星 匠(湖陵30期)

### 目次

平成21年度3月末進路状況	2頁	各地同窓会便り	6頁
親子三代 釧中・湖陵百年紀	3頁	学園便り、百周年記念寄付第1号	7頁
誠愛勇から(湖陵15期)	4.5頁	総会当番期より、編集後記	8頁

# 国公立大に131名

## 平成21年度3月卒進路概況



進路指導部長  
浅野 泰弘

(湖陵34期)

「志を高く持ち、易きに流れない」を進路指針に掲げ、統一学校説明会等の学校を挙げての取り組みにより、ここ数年すばらしい結果を残しております。それは、

第一に難関大への取り組みです。6月に行われる難関大入試説明会を皮切りに、国、数、英の講習を数ヶ月に渡り実施したことで東大1名、京大2名の合格者をだすことができました。今後は更に組織的にチームを編成し、合格者を輩出したいと考えております。

第二に3年間の進路計画により、国公立大の現役合格者が4年連続40%を超えたことです。平成21年度は97名が前期で、34名が中後期で合格を果たしました。センター試験がふるわなかったため、

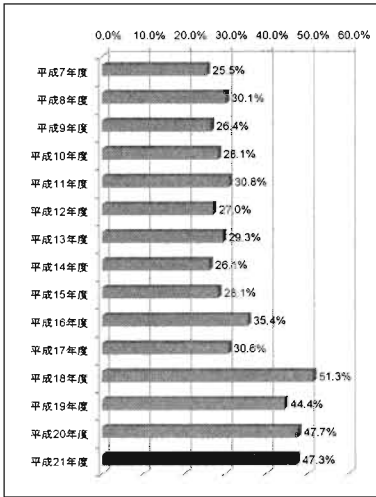
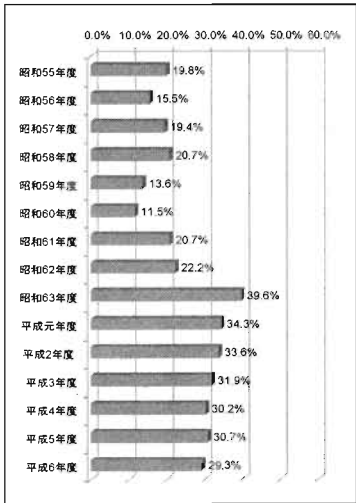
北大受験者が減りましたが、東北圏の国公立大に30名以上が合格する等、生徒一人一人の大学研究が身をむすびました。北大合格者を増やすためにはセンター試験の

平均点アップが今後の課題でしょう。

第三に「私文国理」の原則に従い、特に文系生徒については首都圏の有名私立大学を推奨したことです。その結果早稲田大、慶応大、中央大、立教大、法政大、青山学院大に合わせて、60名の合格者を出すことができました。

この結果に満足することなく、課題を明確にし、さらに充実した指導ができるよう努めていきたいと思っております。

平成22年3月卒業生進路実績  
国公立大学現役合格率の推移(過去30年間)



# 継続は力なり

いつの世も困難がある。摩擦と抵抗というところか。これが無ければ前へ進めない。汽車がレールを蹴り、車が土を退け、舟が水を押し徐ける。

進学した大学でも、良き友はいない。だが就職難の今、企業は減り、門戸は狭い。自営は大変だ。となると目の前が暗くなり、人生経験の殆ど無い者は自殺を考える。甘やかされて育った者は特に大変だ。

まず生きることだ。飽食の今の時代に飢えることは無い。甘やかされて高校に入ったから根性が無いだけだ。自立の心は己自身が鍛えるしかない。他人の手は借りられない。

念ずれば必ず道は開ける。私自身も、就職の無い時代に幾人もの男、女を就職させた。切羽詰まった者はどんな職も厭わずに就き、誰もが驚く才能を発揮してきている。どんな職業が人に合っているのか、己自身の知らない才能に驚くことさえある。事に当たらないければ引き出せない長所もあるのだ。

「先の事など分からない。ケ・セラセラ」の歌の文句ではないけれど、「下手な考え休むに似たり」で、ノンビリと、時には休んで自分自身を活性化させて再出発するのだ。

「継続は力なり」。

奥田 達也(湖陵1期)



# 親子三代 釧中・湖陵百年紀

釧路っ子の自慢として、今や道内はおろか全国にその名を知られる「竹老園 東家総本店」は、創業130年を越える道内最古のそば店。そんな老舗の4代目として釧路に生まれた店主の伊藤正司さん（釧中27期）は1944年（昭和19年）の卒業。

呼ばれていた女学校が江南高校に変わり、湖陵高校が初めて男女共学になった最初の学年でした。

まさに大戦末期の苦難の中で青春時代を過ごした正司さんは、当時の軍国少年の多くがそうであったように卒業直前に式を待たずに陸軍士官学校の予科に入学、さらに戦闘機乗りになるべく航空士官学校に半年ほど学んだところで終戦を迎えました。幸い正司さんは招集される直前でしたが、同じように航空兵を志願した先輩の多くが戦死されたそうです。「当時は授業でも、週に一時間の軍事教練があつたほか、夏休みになると音別や計根別にあつた軍馬補充部などに援農に駆り出されました」と当時を振り返ります。

兄正司さんと共に竹老園の屋台骨を支える弟の文雄さん（湖陵5期）は1953年（昭和28年）の卒業。「卒業式直前の2月末に校舎が全焼し、卒業式はよその体育館を間借りして行いました」と語る文雄さんは、前年の3月4日には、午前の授業中に発生した十勝沖地震で全校生徒が避難するという経験もされています。

「おしどり夫婦」としても知られる正司さんと節子さんは、5人の子宝に恵まりましたが、頭脳優秀な家系の多分に漏れず、全員が湖陵を卒業しています。

長男の祐司さん（湖陵28期）は1976年（昭和51年）卒業で、農水省技官を経て現在は札幌の農事試験場に勤務、長女のみどりさん（湖陵29期）は1977年（昭和52年）卒で東京のアメリカ大使館にお勤めです。次男の純司さん（湖陵30期）は1978年（昭和53年卒）と三男の真司さん（湖陵32期）は1980年（昭和55年卒）は、

世の中が平和になり、昭和30年に正司さんと結婚された妻の節子さん（湖陵3期）は1951年（昭和26年）の卒業。釧路高女と

ともに工学系の大学を卒業後、大手電気メーカーでエンジニアとして活躍されていましたが、十数年前に相次いで帰釧。現在は正司さん文雄さん兄弟と同じように、お二人で力を合わせて竹老園の経営をサポートしています。

## 一族十数名が湖陵卒 竹老園の伊藤さん



写真前列左から伊藤文雄さん、正司さん、節子さん。後列左から英司さん、友香さん、真司さん、純司さん。

5人の子弟が連続して湖陵生となった正司さんは、10年以上も母校のPTA会長を務められたほか、その誠実な人柄と手腕が買われて市教委の教育委員長も2期8年にわたって務められました。

そして現在は、やはり長女の友香さんが65期生として1年次に在学中で真司さんが、父正司さんと同じく湖陵高のPTA会長を務められているのですから、まさに一世紀になんなんとする「湖陵一族」なのです。

取材・西村 貞広（湖陵30期）

# 同窓会の“結びつき”

湖陵15期 広部由美子

昭和19、20年生生まれの私たちは、湖陵高等学校に入学したのは、同35年の4月です。3年間で共にして同38年3月に卒業するまでの思い出を書かせていただきます。

ただ、3年間の思い出といっても、同窓生のみならずすべての

かわり合いがなかったので、自分勝手な文章になりますことを、まず最初に、お許し願いたいと思います。

## 上級生が大人に

私は、弥生中学校(現幣舞中学校)から、あこがれの湖陵高校を受験しましたが、仲良し3人がそろって入学でき、とてもうれしく、喜び合いました。

クラスは別々でしたが、コーラス部が一緒に、仲良く過ごすことができ、卒業した今でも交流が続いております。

当時はAクラスからHクラスまであり、子どもの多い時代に生まれた私たちは、たくさんの友人に囲まれ、一人っ子の私にとって、学校が楽しかったの

です。高校に入り、上級生の男子が、大人に見え、びっくりしたことを覚えています。

入学からあつという間に過ぎ、仲良くなった友人と休みの日、映画を見て、銀水のラーメンを食べソフトクリームを食後になめた時は、ちよっぴり大人になった気分でした。卒業まで、休みにはこのコースが定番になっていました。

また、初めての文化祭の行灯作りで、皆と一緒に力を合わせて作ったことは、忘れられない思い出の一つです。市内を練り歩き、皆との一体感！友情も深まりました。それから文化祭には、毎年ハワイアン演奏とともに、全学年でフォークダンスを踊ったことも楽しかったです。

## あこがれのHさん

当時、湖陵高校の野球部が強く、市営球場に応援に行きましたが、応援よりブラスバンドの指揮者、Hさん(ハワイアンのスチールギター奏者)にあこがれ、球場に足を運びました。ちなみに、私たちの顔はグラウンドに向いています。指揮者だけは私たちの方を向いていますので……。

ある時、クラス対抗のバレーボール大会に出場することになってしまいました。私は、小学校の6



野球の応援に“熱”があがりました



男沢先生にはお世話になりました(書道部)



年間クラシックバレエを習っていました。でも、運動音痴だったので、泣く泣く出たのですが、後にも先にも一回きりで、今となっては良い思い出になりました。

私は、男沢先生に書道部で3年間、書を学び勉強しました。卒業してから現在まで書道が続けられたことは、男沢先生との出会いがあったから、と感謝しております。私たちの学年には、芸術の道に進まれ、それぞれ活躍されているお話を聞くと、うれしくなります。

### 結婚しました

同期のみなさんには、それぞれにいろいろな経験をした3年間だったと思います。卒業したあとに聞いたのですが、今まで一番進学率がよかったとのこと……。現在は、どうなのでしょうね。

ところで、私たち同級生同士、同期生同士、また、先輩と結婚した方が何組かいらっしやいます。私も前文に書いたハワイアンズのチールギター奏者のHさん（指揮者）と6年ぶりに出会い（弟さんが私と同期でした）、あこがれの人と結婚することができ、現在にいたっております。

13期生と15期生の「結びつき」をご報告して、文章を終わらせていただきます。

## ジオパーク

2009年世界ジオパーク（地質遺産公園）に我が国から洞爺湖など3地域が認定された。日本で認定されているジオパークには、山岳、断層、鉱山、湖沼など地質的に特異性あるものだけでなく、霧多布湿原など植物の自生地も含まれる。認定の条件は、見学できるよう立ち入ることができ、ツアーガイドによる現地案内も行っていること、地球科学・環境教育の普及活動を行っている地元組織がある、などである。私は20年前から我が国最大、我が国初、道内最古などふるさと釧路が他に誇るべき自然・文化・歴史がないか文献で調べている。あることはあるが、どうも地元の郷土愛・情報発信力が乏しく埋没したままである。有名な阿蘇カルデラをしのぐ我が国最大の屈斜路カルデラ、我が国最大のカルデラ湖の屈斜路湖など誇るべき地元資源を持つ弟子屈町ではエコツアーの先駆けである。硫黄山つつじヶ原朝の散策が30年も行われ、ジオパーク認定の条件に適合している。産業遺産など地域挙げての再発見・連携は観光面だけでなく地域活性化に必ず役立つものと言える。

田巻 恒利（湖陵18期）



# 同窓会だより

## 東京湖陵会



幹事期の21期によるステージ

路湖陵高校の田川芳紀校長が祝辞を寄せたあと、議事に入り、会員の拡大、名簿の整理、各地域の湖陵会との交流など、新年度事業を決めました。

懇親会では、今年3月に役目を終えた釧路港の霧笛を録音したCDの販売もあり、会場は釧路一色に染まっていました。

## 札幌湖陵会

札幌湖陵会（伊藤拓摩会長・湖陵21期）の第24回定期総会と懇親会が7月3日、札幌市内のホテルロイトン札幌で開かれ、約270



270人が集まった札幌湖陵会

人の同窓生が参加しました。総会には、釧路から釧路湖陵高校の田川芳紀校長をはじめ釧路湖陵同窓会の栗林延次会長（湖陵17期）、東京湖陵会の正札喜久雄会長（湖陵21期）、関西湖陵会の今井善紀幹事長（湖陵11期）らも出席し、1年ぶりの旧交を温めました。

総会では、伊藤会長が今年の母校の部活動の活躍ぶりを報告しながら「昨年より参加者が40人ほど増えた。再来年の100周年に向かい頑張りたい」とあいさつしました。続いて田川校長、栗林会長が祝辞を述べました。また、100周年の段本正美実行委員長（湖陵24期）が「100周年は明るく元気に思い出深いものにしたのでぜひ協力を」と呼び掛けました。このあと、懇親会に移り、高校時代に戻り、思い出話に花を咲かせていました。

## 関西湖陵会

関西湖陵会の第3回総会・懇親会が、4月17日に大阪弥生生会館で、24名が参加して開催されました。総会には、札幌湖陵会から伊藤拓摩会長（湖陵21期）、東京湖陵会から諏訪幹雄副会長（湖陵23期）、またなぜか、釧路K高のOB氏の飛び入りもあり、旧制・新制、常連、初参加など、今年もにぎやか



関西湖陵会に参加したみなさん

な顔ぶれで行われました。

写真撮影、校歌斉唱に次いで、新会長を選出しました。初代会長の育田義夫さん（釧中22期）より、辞意申し出があり、これを受けて、2代目会長に、西田暉至氏（湖陵7期）を満場一致で選出しました。育田前会長のこれまでのご指導に、この稿を借りて感謝申し上げます。

懇親会では、小川清至幹事（湖陵17期）の名調子の司会進行のもと、にぎやかに、楽しく、そしてますます親睦が深まったようです。

## 摩周湖陵同窓会

弟子屈町と標茶町の同窓生による摩周湖陵同窓会（岩崎寛会長 釧中28期、会員44人）が、5月22日に標茶町内の三楽荘で開かれました。この日は10人が参加しました。

懇親会では、釧中、湖陵時代の思い出話に盛り上がり、次回の再会を約束していました。



摩周湖陵同窓会に参加したみなさん

第21回東京湖陵会（正札喜久雄会長・湖陵21期）の総会と懇親会が、6月19日に東京都内の日本青年館で開かれました。総会には、会員のほか、釧路から釧路湖陵同窓会の栗林延次会長（湖陵17期）や蝦名大也釧路市長（湖陵29期）、札幌湖陵会の伊藤拓摩会長（湖陵21期）、関西湖陵会の鐘ヶ江孝昭幹事（湖陵21期）らも参加、総勢140人が交流を深めました。

正札会長が、昨年に次いで参加者が多かったことへの感謝を述べ「十分に楽しんでください」とあいさつ、蝦名市長、栗林会長、釧

だより

同窓生の皆さまいかがお過ごしですか。

「くまざさ」57号発刊に当たり、昨年からの学校の様子を簡単に伝えします。

〈8月〉

・統一学校説明会

本校体育館を会場にして、湖陵高校が参加を要請した道内外約70の大学・短大などが参加し、行われました。各大学のブースに積極的に足を運び熱心に質問する生徒の姿が見られました。昨年度は第8回目で、今年も8月末に第8回が予定されております。一つの高校が主催して、その高校が求める大学に参加してもらおう、このような説明会が定着している例は全道でも数少ないそうです。

〈10月〉

・見学旅行

2学年のクラスを2班に分け、1日ずらして出発します。4泊5日の日程で、京都・奈良・東京方面へ行ってきました。

〈1月〉

・センター試験

今年は2550人が受験しました。

た。年々センター試験の受験者が増えています。今年はずいぶん生徒の9割に達しました。ほとんどの私大がセンター試験に参加している現在、私大専願者でもセンター試験を受けるのが普通となっています。試験当日は受験生徒の激励のため、朝早くから極寒の中、会場の道大大館路校前に立つ多くの先生方の姿が見られました。

〈3月〉

・第62回卒業式。277人の生徒が湖陵の誇りと夢を胸に、学窓を巣立ってゆきました。

・高校入試

今年度は普通科が1間口増になり、理数科1間口、普通科6間口の計7間口の募集となりました。ところで、湖陵高校では英数国において裁量問題というのを採用していることをご存じでしょうか。これは2年前から始まった新しい制度で、高校が志願者の学力に応じた、ややレベルの高い問題を課すことを選択できる制度です。ですから、湖陵高校受験者は他校受験者に比べてちょっと大変かもしれませんね。

・大学合格発表

1331名の現役生が国公立大に合格し、私大においても多くの現役生が難関私大に合格しました。

・教職員異動

片岡校長を始め13名の教職員が異動・退職しました。中でも天内優先生が17年、実習助手の中川千恵子さんが26年と長年湖陵高校のために力を尽くしていただきました。どうもありがとうございます。

〈4月〉

・教職員異動

田川校長を始め14名の新任教職員を迎えました。

・平成22年度入学式

282名の新入生が夢と希望を胸に入学しました。

・宿泊研修（1年生、川湯温泉御園ホテル）

・湖陵の日（4月29日）

P T A総会と授業公開・進路講演会・学級懇談を併せ、休日に行われております。また、夜には全日空ホテルに会場を変え懇親会が開催され、多くの父母と教職員が参加し盛大に開催されました。

〈5月〉

・教育実習（4名の卒業生を迎えました。）

・高体連釧根支部予選

団体または個人で全道大会に出したクラブは次のとおりです。

陸上部・バレーボール部・バスケットボール部・テニス部・ソフトテニス部・バドミントン部・ハンドボール部・剣道部・弓道部・卓球部・空手道部・山岳部です。

文化系ですが放送局（V O K）も全道大会に進出してあります。

〈6月〉

・高体連全道大会

全道大会においては各クラブともよく健闘しました。特に陸上部の瀧澤さん（3年）は女子砲丸投げで5位、渡辺君（2年）は男子800mで5位にそれぞれ入賞し、7月末から始まる沖縄県でのインターハイに出場します。

〈7月〉

・野球全校応援

甲子園につながる夏の大会で、野球部がブロック決勝に進出したので全校応援をおこないました。江南高校相手に惜しくも5対7で破れましたが、野球部員の最後まで諦めない熱い戦いに、全校生徒も盛大な応援を送りました。以上簡単な内容となりましたが、ご容赦下さい。また、今後とも母校のため、後輩のためによりしくお願いします。

澁谷倫之（湖陵26期）

100周年実行委に寄付

釧中20期

・寄付第1号

釧中20期は、このほど100周年記念事業実行委員会に10万円を寄付しました。同実行委員会への寄付第1号で、この日は滝澤均さんが寄付金を手渡しし写真「たいへんありがたい」と同実行委員会は感謝するとともに、「今後の弾みになります」と話していました。

星 匠（湖陵30期）



# 総会当番期より

高校を卒業して25年が経過し、

厄年も過ぎたところで、同窓会の幹事期がやってきました。私たちの期は、教育課程変更の影響なのか、はたまた38期に問題が多かったせいなのか、在学中の3年間、

理数科以外は毎年クラス替えがありました。多くのクラスメイトと知り合えた利点はありましたが、2〜3年と同じクラスではなかった為、ひとつのクラスとして結束感が薄いような感じがしています。自分がクラスに馴染んでいなかったせいかもしれません。しかし、昭和58年度〜60年度まで富士見の旧校舎で過ごした学生時代の記憶は、非常に特徴的で忘れることが出来ないのです。それも当然授業の内容ではなく、校舎の古さ、その当でも少なくともあった石炭ストーブ暖房、鳩が

我がもの顔で暮らしていた屋体、昼食時混雑していた階段下のパン販売、放課後のたまり場となっていたニシムラ、ちょっとした問題(?)を起こした為、集められた図書室、そして授業をサボってひっそりとコンテストに出品する番組を制作していたVOK室。四半世紀も経過すると、嫌な思い出が淘汰され、過去が美化されていくのですね。そういった意味で言う経験を重ね、歳をとるのは素敵なことなのかも知れません。

高校時代に戻って何かをやり直したいとは思いませんが、昔の自分を遠くから見てみたい気分ではありません。

過去の思い出から時計を進めます。10年前に初めてお手伝いした同窓会から、減ったでもなく増えたでもない同様のメンバーという限られた人数で同窓会の準備をしています。28期、48期の先輩、後輩の力を借りて何とか百周年に向け、次期にバトンを渡せるよう、努力したいと思っています。

太田 泰晶 (湖陵38期)

## 実行委員会組織は同窓会総会で提案

7月12日に釧路市のアクア・ホールで合同幹事会が開かれました。同窓会の栗林延次会長(湖陵17期)が挨拶をしたあと、今年の当番期、28、38、48期から、8月14日の同窓会総会に向けての決意表明が行われました。

ところで、同窓会の島本幸一幹事長(湖陵19期)から、2年後に迫った創立100周年記念実行委員会組織図(案)が示されました。現在、式典と祝賀会につきまして

は、2012年9月29日(土)を軸に調整が行われています。

組織は、葭本正美委員長(湖陵期)を先頭に、幹事長、副幹事長が補佐します、さらに実働部隊として、事務局、記念事業部会、協賛事業部会、そして各地の湖陵会とも連携をとります。

実行委員会組織については、同窓会総会で提案し、審議のあと、具体的に動き出す予定です。

星 匠 (湖陵30期)

## 編集後記

今年は映画、地の果てに生きるものが公開と流行歌、知床旅情が発表されて50年。その年の夏、我が父に連れられて中一の私と小5の弟は、団体旅行で知床半島、

羅臼に向かうバスの中に居た。森繁久弥主演の映画の評判もよく車中は、ほぼ満員。天候もよくバスは砂煙を立てて走り、窓を開けられなく車中は蒸し暑い。最初の休憩は釧路と標茶を結ぶ飯盛峠、今の達古武峠を下りた所であった。今も営業の店があつてバスから降りた乗客は冷たい飲み物を求めた。父が私に買いつけたものはサイダーが売り切れ、コーラだった。



(前列左から) 星匠・西村貞広・川端紀一・奥田達也  
(後列左から) 佐藤文昭・渋谷倫之・田巻恒利・増子正樹

初めて口にするコーラは冷たくなく、まるでサイダーに醤油を加えた味だった。そこを後にして、再び羅臼に向かう車中で自己紹介が始まりマイクが回された。弟の所にマイクが回ってきた。弟は社交的で、桃太郎のお伽話に脚色を加え万雷の拍手をもらった。バスに5時間ほど揺られて羅臼に着き海岸に座り持参の昼食をとる。食後、父は私たちを磯遊びに誘った。海に入ってみたら海水は冷たいが背中の日差しは暑かった。父は「こんなに採れた」と言つて大きなムラサキウニを5、6個見せてくれた。父は割つたウニを旨そうに食べた。私も初めての経験で食べて

みたがヌルヌルして旨くなかった。だが潮の香りが口の中に広がった。街の西側を山でふさがれた羅臼は日が落ちるのが早い。夕刻、宿泊先のユースホステルに着いた。初めての羅臼、初めての長い距離バス、初めてのユースホステル、初めてのコーラなど忘れ難い。あれから半世紀、父も弟も失い遠い旅の思い出を語り合う肉親が居なくなつてしまった。時の移ろいを感じる。

田巻 恒利 (湖陵18期)

## 釧路湖陵高校

〒085-0814  
釧路市緑ヶ岡3丁目1番  
TEL (0154) 43-3131  
ホームページ  
<http://kushiro-koryu.hp.infoseek.co.jp/>

## くまざさ編集委員会

- 同窓会会長 栗林延次 (湖陵17期)
- 同窓会幹事長 島本幸一 (湖陵19期)
- 同窓会会計長 佐藤文昭 (湖陵22期)
- 編集委員長 星 匠 (湖陵30期)
- 編集委員 川端紀一 (湖陵11期)
- 編集委員 増子正樹 (湖陵20期)
- 編集委員 渋谷倫之 (湖陵26期)
- 編集委員 西村貞広 (湖陵30期)
- 編集事務局長 田巻恒利 (湖陵18期)

## くまざさ編集委員会

〒085-0014  
釧路市末広町2丁目4番地  
TEL 0154 (23) 0241  
手動切替FAX 0154 (23) 0242